



人生は

光も影もあり。

何があっても前へ。

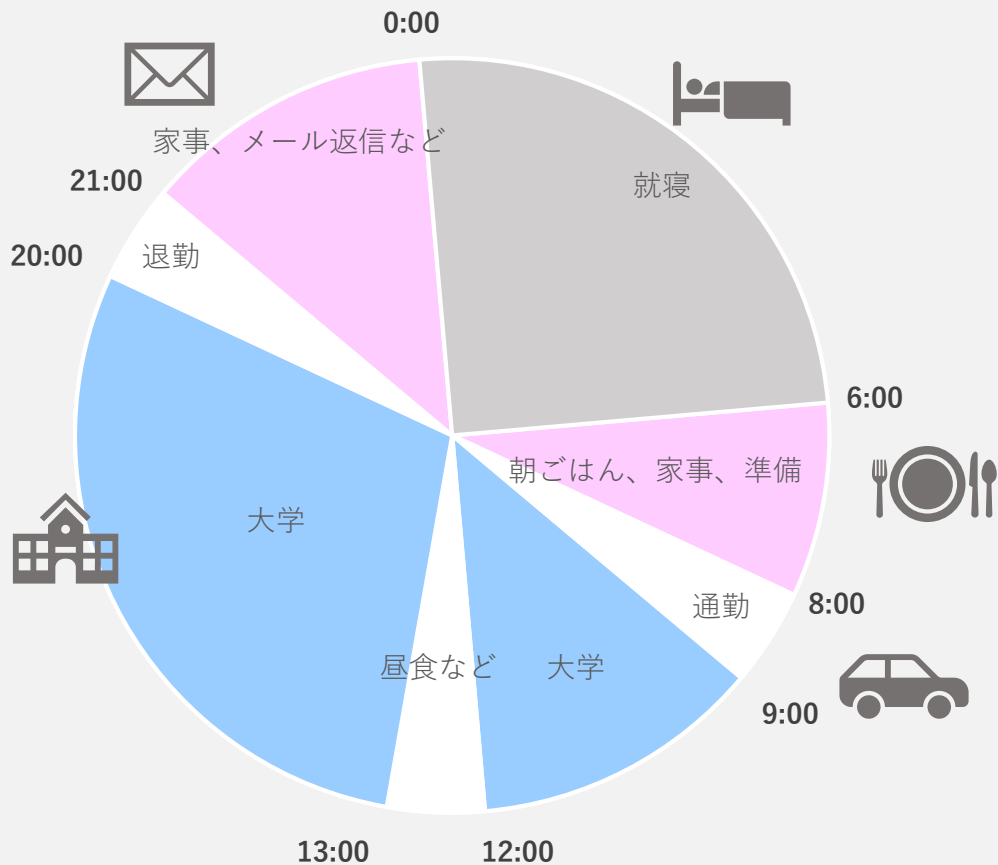
おおた ともこ

太田 朋子さん

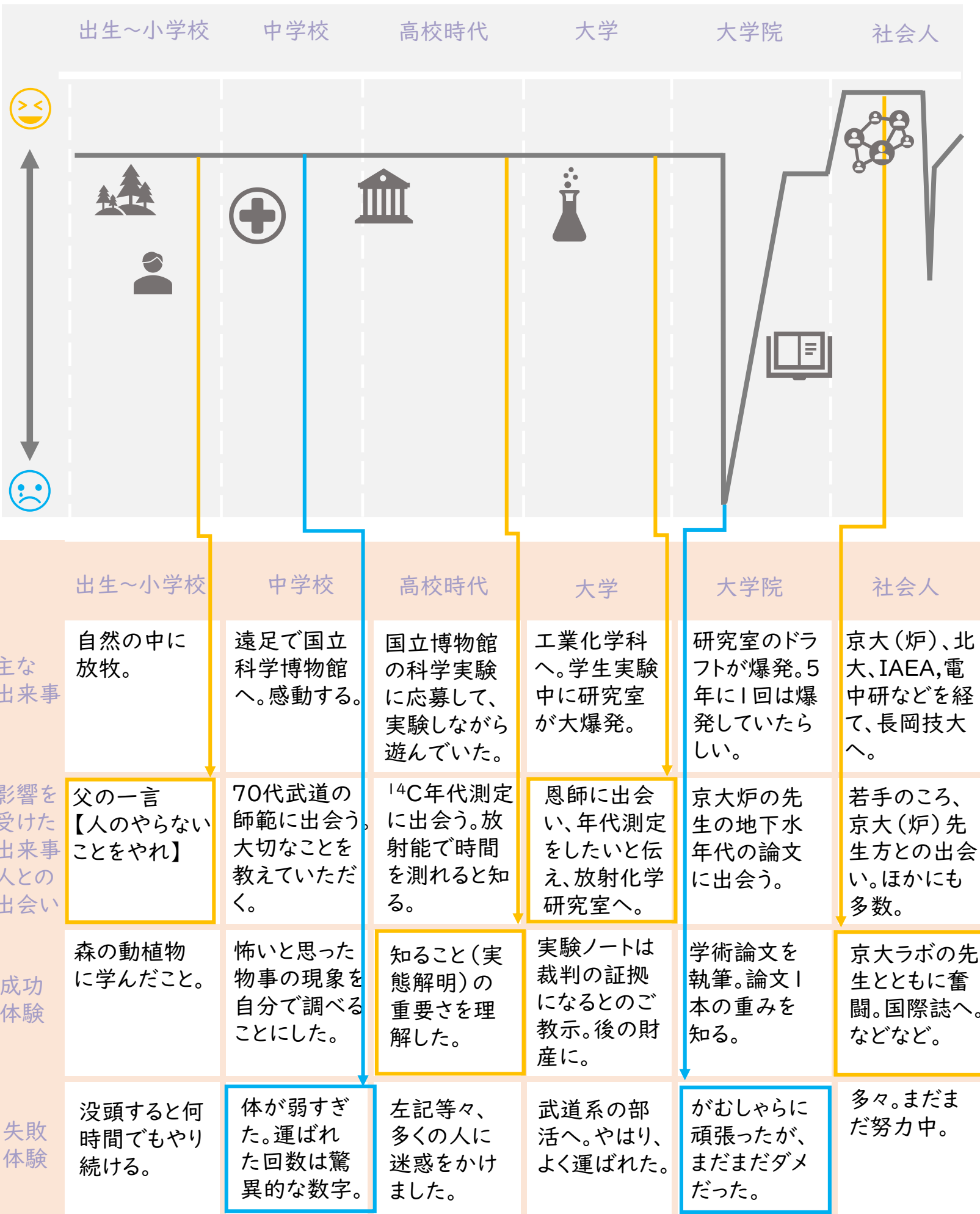
Radiochemist

京都大学(炉, 複合研)、電力中央研究所等を経て長岡技術科学大学に。

### ✓ 太田さんの 日々のルーティーン



# ✓ 太田さん “私のライフチャート”



# ✓太田さんにいろいろお聞きしました!

## 今のこの仕事(職業)を選んだきっかけは?

小学生時代に、がんやエイズなどがなぜか怖く、自分が弱い人間だから怖いのだと思っておりました。10代になり、こんな弱い人間ではだめだと思い、怖いと思う対象【がん等】を本や科学番組で知る努力をはじめました。現象を少し理解をしたら、怖くなくなることに、気づきました。知る(実態解明)重要性を理解したことがスタートかもしれません。その後、国立科学博物館や年代測定、恩師との出会いを通じ自然と導かれるように。

## この仕事を続けていてよかったと思うところはありますか?

6大学・研究機関を渡り歩き、多くの研究者に出会い・学ぶ。民間研究所では、国プロ等を通じ、社会ニーズを意識することに。大学の研究では、自分で新しい価値を見出し、基礎研究を実施できること。研究・論文投稿の自由さ。新しい学説を実証をするために何年も奮闘し失敗を繰り返す日々で、学術論文執筆の苦しみも半端ではないですが、実証成功・論文受理の喜びは大きいです。

## ロールモデルを教えてください!

- ①学生の頃:恐竜の研究者・佐藤たまき先生(恩師のお嬢様。日本の宝だと思う。)
- ②若手研究者時代:
  - ・京大(炉)の藤井紀子先生。バイタリティーに溢れた方。子育て、ご両親も看取り、研究もトップクラス。当時の女子学生曰く、【私も紀子先生みたいにしぶとくなりたい!】老若男女を問わず多くの方に慕われている方。
  - ・京大ラボの教授。信念の強い方。大切なことをたくさん教えてくださいました。

## 学生時代の自分を振り返って

D2終盤で恩師が【太田は基礎研究のできる場所に】と一言。当時は基礎研究の重要性を理解できていませんでした。その後、大学の公募応募のために恩師に推薦状を書いていただきました。数年後、推薦状を読んだ先方の教授から、恩師の推薦状は【まるで孫娘を嫁に送り出すような文章だった】とお聞きしました。研究は失敗の連続でしたが、同期・先輩後輩、先生方等、人に恵まれた学生時代でした。

## ワークライフバランスについて教えてください!

- ①動物・植物と過ごす。生きる強さ・本能で感知できる能力は人間より桁違い。動物と一緒に森林を散歩。おやつに煮干しをシェア。
- ②共同研究者との様々な話。考え方のスケールの違いに、驚いたり、笑えたり、感動。
- ③長岡散策。初訪問は興国寺。
- ④分野外の本から学ぶ。
- ⑤大雪で車が雪見大福に。足元に流れる地下水の年齢(地下水年代)が気になる。

## 社会に出る前の皆さんへメッセージをお願いします!

世の中、明らかな不平等・制限を課されることもあります。しかし、生きている限り何があっても、明日は続き、前に進むしかありません。科学技術も光と影がありますが、人生も光(成功)と同程度の影(闇)を伴うものです。たとえ、どんな絶望的な困難に直面しようとも、自分の人生を自分で投げ出さないでください。次のチャンスをつかみ取る時まで、あきらめずに努力を続けてください。道を切り開いてください。

チャンスをつかみ取る時まで

あきらめずに努力を続けてください。